

連載

中学校における DV 予防教育

後編 中学生向けの授業について

酪農学園大学 食と健康学類 教育発達心理学研究室 教授 須賀 朋子

はじめに

今回は、DV予防プログラムの内容の紹介と、「なぜ、私が中学生向けのDV予防教育の開発をしたか」を書かせていただきました。元中学校の教員だったことと、私自身がDV被害を受けたことがきっかけになり、博士論文のテーマとなりました。今思うことは、人生の一番ピンチだったことが、博士論文のテーマになったのですから、ピンチがチャンスになったわけです。この経験から「ピンチがあるからチャンスが来る」と、大学の授業でも学生に話し、自分自身にも肝に銘じて、毎日を過ごしています。

2012年から2014年の3年間で、予防プログラムの作成、介入研究に協力してくれる学校を探して依頼し、生徒にアンケート調査に回答してもらいました。2012年の時点では「中学校でDV予防？」という顔を先生方にされ、依頼することにとて苦勞して、何度もくじけそうになりました。しかし、私の母校に頼み込んで、研究協力として介入授業をやらせていただきました。現在でも、「中学生にDV予防？」と感じている学校もあると思いますが、札幌市では、市が「デートDV予防」を中学校・高校に推奨をされていて、財源も確保してくれているので、私のところにも随分、依頼がくるようになりました。博士論文で取り組んだ研究が、社会に必要とされている分野だったということを感じ、北海道の中学生、高校生に出前授業を行いながら、うれしさをかみしめているところです。

さて、「DV予防教育は、中学生に効果が

あるのか？」ということが大切になってきます。その検証を、博士論文の研究で行い、中学生には、効果があることを突き止めました。高校生になってからでは遅いからです。詳しい内容は、『中学生へのドメスティック・バイオレンス予防啓発に関する研究』（風間書房刊、2015）を読んでいただくとよいのですが、この場を借りて、中学生にDV予防教育を行うことの大切さを、データを示しながら、簡潔に説明いたします。

中学生へのDV予防教育の効果

中学1年生～3年生までの220名を対象にDV予防教育プログラムを実施しました。内容は『中学生・高校生のためのDV、暴力予防教育プログラム』（かりん舎刊、2020）を参照してください。中学生220名にアンケートに回答してもらったところ、DVの因子として2つの項目が関係していることが判明しました。1つは、「好きな人には嫌われたくないので意見を合わせる方がよい」、「好きななら何があっても相手を最優先するのは普通だ」、「男性は女性を常にリードするべきだ」の、関係性に対する認知の項目を中心として構成されている「関係性」因子。

もう1つは、「相手を脅すために物を投げたり、わざと大きな音を立てたりするのは暴力だ」、「ひどい言葉や大声で怒鳴ることも暴力だ」、「自分の考えを押しつけたり、無理強いをしたりするのは暴力だ」の脅威を与える行為の項目で構成されている「威圧行為」因子です。

「関係性」についての理解は、プログラムを実施する前は、平均値が9.30でしたが、

プログラム後は9.94に有意に上がり、1か月後も9.86と「関係性」についての理解が下がっていませんでした（図1）。

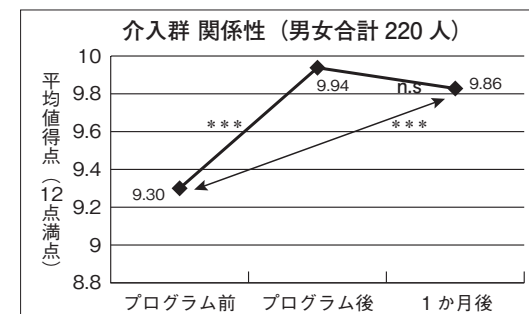


図1 中学生関係性得点 (男女合計) の変化
12点満点で数値が高い方がよい
***p<.001、n.s.=not significant

「威圧行為」についての理解は、プログラム実施前は平均値が9.59でしたが、プログラム後は10.78有意に上がり、1か月後は、10.00へと有意に下がってしまいました（図2）。

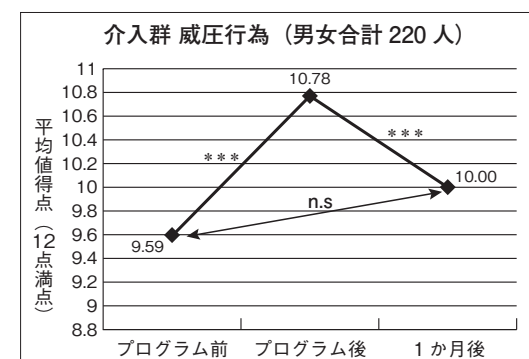


図2 中学生威圧行為得点 (男女合計) の変化
12点満点で数値が高い方がよい
***p<.001、n.s.=not significant

これらのことからDV予防プログラムを行うことによって、中学生は「関係性」についての理解が長期にわたり持続することが明らかになりました。しかし「威圧行為」については、意識が長期間続くのは難しいことがわかりました。「威圧行為」については、繰り返して教育していくことが必要だと感じています。

さらに、プログラム後に「DV予防プログラムの授業を受けて」の感想として、5項目の質問をしました。「あてはまる」、「少しあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「あて

はまらない」の4件法で回答をしてもらいました。「あてはまる」、「少しあてはまる」と肯定的に答えた生徒の割合は、図3の通りです。

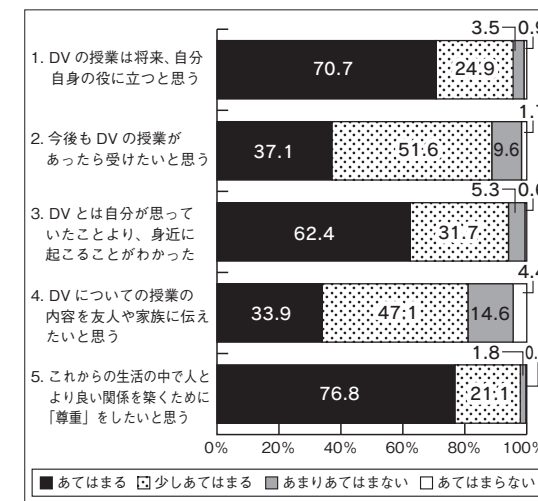


図3 プログラム後の中学生の結果 (数字は%)

「1. DVの授業は将来、自分自身の役に立つと思う」が95.6%（「あてはまる」「少しあてはまる」の合計）、「2. 今後もDVの授業があったら受けたいと思う」が88.7%、「3. DVとは自分が思っていたことより身近に起こることがわかった」が94.1%、「4. DVについての授業の内容を友人や家族に伝えたいと思う」が81.0%、「5. これからの生活の中で人とより良い関係を築くために「尊重」をしたいと思う」は97.9%、とすべての項目で、プログラムに対して、高い肯定的な評価でした。

終わりに

DV予防教育プログラムを行うことは、中学生が「関係性」について理解をすることに、長期間効果があることを、私は養護教諭の先生方にお伝えしたいです。その反面、「威圧行為」については、プログラム後は理解しても、すぐに忘れてしまうという結果は、私自身が中学校の教員をしているときの生徒の言動からも想像できる気がします。繰り返し、「威圧行為」についての諭しを中学生にしていく必要があると思います。